

エコファーム ヘルマンズドルフ ドイツ

1997年視察

ミュンヘンから南に高速を20分、そして一般道を20分走ったところにヘルマンズドルフという名のエコファームがある。

この農場は動物を育て、独自の販売方法で市場に出し、必要なエネルギーはすべて自給している。

前身は欧州最大のハム・ソーセージメーカーで、現在のオーナーは3代目だが、4代目を継ぐことになる3人の息子達から「今のままの事業展開では、エコロジーに反する」と企業を継ぐことを拒否されてしまったのが切っ掛けで、工場を売り払って財団法人をつくり、研究所（頭で考える）と農場（手を使う）の二つをつくりエコファームをスタートさせた。

オーナーが55才の時で、今では66才になりこの農場に住んでいる。

敷地の総面積は170ヘクタール。

営業範囲は50～60kmである。牛は80頭、豚は300頭飼っており、餌はすべて無農薬のエコ飼料で、外で草を食べれる間は畜舎内で飼育しない。まったく匂いのない豚舎で飼われていて驚かされる。一般的な養豚では生まれてから4か月で市場に出されるのに、ここでは約10か月もの長い間育てられる。



動物から出た糞尿やゴミからバイオガス（メタンガス）をとって発電している。灯油換算で200～250リットル/日分を発電し農場内の電力を賅なえる。糞尿は数段階の汚水処理を経て最終的には便所と植栽の水に再利用されている。



これが農場とは思えない素敵な雰囲気。正面にあるのがレストランで、自家製の肉、チーズ、有機野菜の料理を出し、自家製のビール、ワインが飲める。→の建物はハムなどを売っている。



センターハウス内部ではここで生産された肉の料理の他、この農場でとれた麦やホップを使ってつくるパンを焼き、ビールまでつくっている。このビールは農場内だけでなく6箇所のビアホールやビール園で販売されている。